

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2019. No.344 **3**
ハンガーゼロ・ニュース

contents

ハンガーゼロ活動報告

- ケニア給食支援
- インドネシア地震被災者支援
- ルワンダ農業プロジェクト

支援者の皆さんの広場

コイノニア福音教会、八尾トーヨー住器



1分間に17人(内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

ルワンダの貯蓄グループの母子(P.4)



給食支援

コイノニアで食べる豆料理が一番おいしい！

昨年もハンガーゼロのご支援により、コイノニア教育センターの生徒たちは健康的な食生活が可能となり、肉体的に大きな成長を与えられました。

コイノニアでは毎日、たんぱく質とビタミンをきちんと摂取できるメニューを提供しています。決して豪華な食事ではありませんが、アフリカ料理に工夫を加えています。生徒たちは同じようなメニューを家庭でも食べますが、含まれているものが、コイノニアの方が豊かなので味もおいしく、栄養価も高いです。

家庭で食べる同じものよりも高い栄養価

例えばケニアで最も多く食べられている食事が、ウガリとスクマウィキです。ウガリはトウモロコシを乾燥させ粉にしたものを熱湯の中でこねておもちのようにして食べます。これが主食です。おかずとして色々な物が考えられますが一番一般的なものがケールを刻んで玉ねぎ、トマトと一緒に炒めたものです。これをスクマウィキと呼びます。名前の由来は、これを食べれば元気が1週間続くという意味です。またもう一つ代表的なメニューは、ゲゼリという豆料理です。豆とトウモロコシの粒を一緒に煮込みます。コイノニアではこれに玉ねぎ、ニンジン、キャベツ、芋を加えて煮込みます。3日前に豆を水に一晩漬け、翌日ゆっくりと煮込みます。そして当日に他の野菜と一緒に煮込みます。生徒たちはコイノニアのゲゼリが一番おいしいと言っています。家庭で食べるゲゼリは豆とトウモロコシだけだからです。このように普段生徒たちが家庭で食べているメニューを、より栄養価の高いもの、おいしいものにして毎日提供

しています。時にはコイノニアでの給食が唯一の食事になる生徒もいます。

食べることで集中力が増しました

昼食以外に、生徒たちは毎日朝10時に雑穀を挽いて粉にしたもので作ったウジというおかゆをカップ一杯飲みます。これはかなりおなかにたまり元気が出ます。家で朝食を食べられない子どもたちは朝8時にまずこれを飲みます。午後帰宅前には毎日果物を出しています。バナナ、パイナップル、スイカなどビタミン補給になるものです。家庭では炭水化物中心の食生活です。おなか一杯になりますが栄



養バランスが悪く、特に成長期の子どもたちには問題です。

ハンガーゼロの援助のお陰で、私たちは子どもたちに食べさせたいと思うものを提供することができています。子どもたちは肌のつやが良くなり、集中力も増してきました。

ハンガーゼロのご支援に心より感謝申し上げます。

(報告：市橋さら)



地震発生!

スラウェシ島地震 (M7.5) は、2018年9月28日にインドネシアのスラウェシ島中部都市パルの北78kmを震源に発生しました。世界でも例のない液状化現象や地すべりによる津波(最大11.3m)が発生し、パルを中心に死者2,000人以上、行方不明者5,000人以上、避難者は20万人以上に上りました。(10月26日、インドネシア国家防災庁発表) 日本でも津波による被害の様子や救援活動が大きく報道され、ハンガーゼロも現地パートナーであるFH(国際飢餓対策機構)インドネシアの緊急支援活動に協力することを決定、ホームページを通し募金呼び掛けを行いました。FHインドネシアはその後2名のスタッフを被災地視察に派遣し、10月17日には救援活動の様子が動画や写真で届き、ホームページにて報告を行いました。

4ヶ月を経た今の活動

地震発生後、被災者は余震を恐れ被害の大きかったスラウェシ島中部から南部へと移動し、多くの避難所が設け

られました。FHインドネシアも同島南部ラパンの避難所で約9,000人を対象にこれまで緊急支援を行ってきましたが、地震発生から約4ヶ月が経ち、多くの避難民が同島中部へ帰宅を始め、人数が1,018人にまで減少した



とのことです。そのため再調査をスラウェシ島中部で2月に行い、地域リーダーや避難者との話し合いから、今後の救援活動をどこでどのように行うかを決定するとのことです。仮設住宅の建設は2018年12月より始まりましたが、災害支援のスキルを持つスタッフの教育、混乱した地域での資材調達、子どもたちの教育や公衆衛生の確保、長期化する支援計画の立案など、課題は山積みです。FHインドネシアとしては緊急災害支援から始まり、同島での長期的なコミュニティ支援に活動を繋げていくことを検討中です。日本からも今回の支援をきっかけに継続的なFHインドネシアとの協力関係を、農業や子ども教育の分野で築いていければと考えています。



※スラウェシ島地震への募金受付は2019年2月で終了させて頂きました。引き続きインドネシアをはじめ各国で行われているコミュニティ支援のため「ハンガーゼロ募金」へのご協力をお願いします。

(注) FH= 国際飢餓対策機構

無料アプリ「テーブルクロス」で飲食店予約すると給食支援ができます!

ハンガーゼロを応援して下さるパートナー企業の一つに「株式会社テーブルクロス」があります。同社は城宝薫社長が大学3年生の時に「途上国の子どもたちに学校給食を届けたい」との思いで起業、無料の飲食店予約アプリ「テーブルクロス」を活用した事業を展開しています。仕組みは、消費者が①予約アプリを使って同社に登録している飲食店を予約②飲食店は予約1名につき180円を広告費としてテーブルクロスに支払う③テーブルクロスはそのうちの30円をハンガーゼロを含む9つの国際協力団体が行う給食支援活動に寄付をする、というものです。ハンガーゼロは、2015年からこれまでに約66万円の寄付(学

校給食約2万2千人分)をいただき、アフリカなどでの子ども給食支援活動に用いさせていただいています。

アプリは無料で提供、飲食店の予約時にも一切の手数料はかかりませんので安心して利用することができます。この予約システムに登録する飲食店は年々拡大しており、「社会貢献型のビジネスモデル」として注目を集めてきています。

ぜひ皆さんも一度試してみてください。右のQRコードをスマホで読み取るとテーブルクロスのホームページからアプリが入手できます。



▲テーブルクロスHPより

ルワンダ農業支援…3年間の実り



最貧地区「ニャギハンガ」を訪問

ハンガーゼロ総主事 近藤高史

最初の NGO として成果を拡大する FH

早朝に首都キガリを車で出発し、砂埃で前が見えないほどの山道をひたすら走り続けること2時間半。2つ山を越えた先が日本から3年間、農業支援を続けてきた東部州ニャギハンガ地区ニャギタブレ村です。

20名のスタッフが働く現地事務所に到着後、リーダーのエリックさん(写真右端)から説明を受けます。FHは2013年にこの地域に入った最初のNGOで、現在は約3,000人のサポートチャイルドへの支援を中心に、学校建設、農業指導、貯蓄活動などを28のグループを通して行っています。



ニャギハンガ地区は政府による経済の5段階評価で一番低いカテゴリー1に属し、2016年に始まった日本からの農業支援は、さらにその中でも最も貧しい100人(=100家族)を選び、25人ずつ4つのグループに分け農業指導をしてきました。

握手を求めてきた若い農夫

日本の支援が始まった2016年以来、新しい農業の仕方をFHから学び、トウモロコシと豆の収穫が増えたのでそのお金で牛を買ったとのこと。またより売価と栄養価が高いトマトとナスの栽培も始めたことで、今では自分の土地を買い、車の免許も取り、この3年で生活が大きく変わった。日本からの募金でこうした指導がされていると聞いて



はいたが、初めて日本人に会えたのでうれしい、感謝の握手がしたいとのこと。自分は十分な教育は受けられなかったけど、子どもたちには高等教育まで進んでほしいと、満面の笑顔で話してくれました。



コーヒー生産のノウハウを学ぶ老人

孫と一緒に小高い山の畑を案内してくれた老人(写真④)は、以前は自分が食べるのにも苦勞する小作農だったが、豆、トウモロコシに代わってコーヒー畑のある土地を購入し、FHから肥料をやり除虫剤をまき下草で乾燥から苗を守るといった近代的なコーヒーの栽培法を学んだ。その結果、収穫が増え利益が出たので、さらに畑を広げて1,200平米のコーヒー畑とし手伝いに来る3人に給与を払えるまでになった。夢は職業訓練校を村に作り、息子の1人がそこで先生になることだそうです。

マリアさんの貯蓄グループ

マリアさん(写真⑤)がリードする2週間に一回の集会を訪ねました。全員が250ルワンダフラン(約30円)を持参しており、名前を挙げ記録しながら貯金していきます。こうして貯めたお金から必要に応じて交代で、農具やヤギ(写真⑥)、苗(同)を買うまとまったお金が借りられる互助会のような仕組みになっています。



駆け足の訪問でしたが日本からの支援がしっかりとルワンダで実を結んでいることが分かりました。応援してくださいました支援者の皆様に感謝いたします。

ルワンダ農業プロジェクトの支援実績
今年度を含む3年間で約840万円
皆様のご支援を感謝申し上げます



千の丘の国・ルワンダを訪ねて

ハンガーゼロ理事 篠原 基章

ムランビ虐殺記念館

「千の丘の国」とも形容される美しい国ルワンダ。しかしルワンダを語る上で、1994年に起きた80万人を超えるルワンダ虐殺の出来事を切り離すことはできません。私自身、今回ルワンダ行きを決意した理由は、このような痛みを経験した国がどのように歩んでいるのかについて学びたいという思いがあったからでした。

この旅を通してルワンダ南部にあるムランビ虐殺記念館(写真⑤)を訪れることができました。ムランビ虐殺記念館は元々学校として建築中だった建物で、丘の頂上に位置し

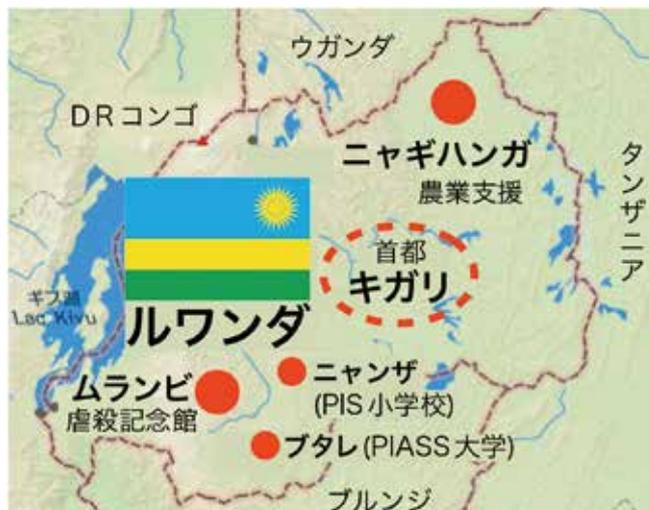


ています。「あの学校に逃げれば助かる」という情報が流れ、5万人を超えるツチ系住民がこの学校へと逃げてきました。しかし、これはツチ系住民を効率的に殲滅(せんめつ)するために計画的に流された情報であったのです。丘の頂上に位置する学校に逃げ場はありません。

その当時のフツ独裁政権の指揮によって動員されたフツ系住民はこの学校を取り囲み、ツチ系住民を集団殺戮したのです。女性も子どもも老若男女関係なく殺されました。この場所で発見された遺体の一部ですが、一千体を超えるミイラ化した遺体が、今もそのままの姿で保管・展示されています。(館内の写真撮影は禁止されています)

平和をつくる和解の取り組み

ムランビ虐殺記念館から車で40分位の町ブタレに一人の日本人が住んでいます。佐々木和之さんです。(右写真)佐々木さんはハンガーゼロを通し、かつてエチオピアに農業指導者として派遣されていた方で、その後、英国ブラッドフォード大学で博士号(平和研究)を取得し、ルワンダに腰を据えて現地の人々の和解と共生のための「償いのプロ



ルワンダ共和国

- ・アフリカで一番人口密度が高い(四国大で1,200万人)
- ・カガメ大統領による政治は安定し、経済が成長中
- ・アフリカで一番安全でゴミのない国(ビニール袋禁止)
- ・農業、コーヒー、鉱産物に加え、IT国家を目指している
- ・ルワンダ語、スワヒリ語、2010年に仏語から英語に切替

ジェクト」(加害者が被害者家族のために家造りに取り組む「修復的正義」による和解の取り組み)に奥様と共に携わってきました。

また、ルワンダのプロテスタント人文・社会科学大学(PIASS)でルワンダ初となる平和学コースを創設し、ルワンダや近隣国から学びにくる学生たちに和解と平和構築について教えています。日本から交換留学生として学んでいる4人の女子学生にも今回会うことができました。



佐々木さんがある新聞のインタビューで語った言葉を紹介します。「原爆という悲惨な体験から復興したヒロシマは世界の人々の希望だ。同時にルワンダの和解の取り組みも人々に勇気を与える。互いに励まし合い戦争のない世界をつくるため行動してほしい。」

ハンガーゼロの働きは戦争のない世界をつくるための取り組みでもあることを覚えておきます。

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」(新約聖書：マタイの福音書)

コイノニア福音教会がウガンダの学校に教室をプレゼント！

昨年夏、ウガンダで行われたサマーキャンプにチャイルドサポーターの御所豊穂さん(写真前列㊦)が参加されました。その方が、ウガンダの様子を自分が所属する神戸市のコイノニア福音教会で報告してくださいました。その結果、牧師先生を中心にウガンダのナムトゥンバの学校に是非教室をプレゼントしたいという動きが起こり、実現することになりました。

ハンガーゼロのキャンプで現地の人々の生活を実際に見、体験された参加者の報告が、その地の教育環境を変え、ひいては子どもたちの将来に夢を与えることになることを心から感謝します。



【ウガンダ・ナムトゥンバの学校について FH からの報告】

この20年間、ナムトゥンバではウガンダの他の地域と同様、UPE(国連による初等教育の基準)を取り入れてきました。このことによって教育への関心が高まり、公立小学校への就学が非常に増え、小学校の就学者は1990年代の40%以下から2017年には95%を超えました。



コイノニア福音教会では昨年12月のクリスマスイベント会場でウガンダのための募金活動を実施。ハンガーゼロもブース出展(写真㊦)で協力しました。

就学者率が著しく向上したにもかかわらず、ナムトゥンバ地域の農村部では公立学校での学習成績が依然として思わしくないという数字があります。これには教師不在、学校のインフラの不足、学習者の識字能力や数学の成績の向上をはかるための教材の不足などの原因が複雑に絡んでいます。

地方自治体は公立学校におけるこの危機的な問題に対応するために努力をしていますが、教育省の財源不足で、学校のインフラのような資本開発プロジェクトに対応できないままです。

FH ウガンダはカサーレ小学校に不足している教室を建設して生徒数と学校のインフラとのギャップを埋めようと努めてきました。しかしながら財源不足のためにこの課題に取り組むことができていません。以下の表は、カサーレ小学校の教育水準の概略で、クラス毎の生徒数、生徒と先生の割合、水源への距離を示しています。

ウガンダ ナムトゥンバ カサーレ小学校	トイレ数	教室数	登録の生徒数	トイレ1に対する生徒の数	1クラスの生徒数	教師の数	水源までの距離 (メートル)
	2	8	458	229	57	11	250

この表からカサーレ小学校では、国の基準である「生徒40人にトイレ1」と比較して、生徒数が一番多く229に1つとなっています。したがって、対処されなければ、子どもたちは下痢やコレラなどの疾患にかかりやすくなります。これは、学校の衛生状態を改善するためにトイレが必要であることを示しています。

生徒の過密化を減らし教室の獲得競争をなくして、より良い学習条件を提供することは、FHが目指す、コミュニティの貧困削減および極度の貧困からの卒業という「コミュニティ変革計画」の目的に沿うものです。



大阪の八尾トーヨー住器株式会社が、今年1月に「ハンガーゼロ自販機」を2台設置してくださいました。本社を訪問して皆さんにお話を伺いました。

思いやりの心を大切にしていあわせを世界にも届けたい

Q 2017年2月に、御社で初めて「こころプロジェクト」を開催されたそうですね。

A 〈井関〉 はい。当社のことを、もっと地域みなさんに知っていただくことと、会社として何か地域のお役にたてないかと考えて、アウトレットセールをしました。そして、その全収益を募金させていただきました。去年は、「地域とつながること」を目的にプログラムを考えました。幸い近隣の方々も喜んで来てくださいました。

社会貢献としてのハンガーゼロ自販機に賛同

Q 昨年11月に開かれた2回目のイベントには、ハンガーゼロもブース出展させていただきました。(写真④)

A 〈小口・田村〉 そうでしたね。一昨年、うちから数名がカンボジアの農村部に視察に行ったのですが、その時に、日本の日常生活が、当たり前じゃないことを知りました。たまたま現地の小学校で授業を持たせていただく機会が与えられて、トイレの必要性などを、みんなで絵を描いたりしてアピールしたんです。帰ってから社員研修でカンボジアの人たちの動画を見てもらいました。みんな子どもの笑顔に感激していました。そんなこともあり、社会貢献への関心が高まっていたので、ハンガーゼロの取り組みを知って、自販機のお話があった時には全員が賛成でした。



後列左端に関本さん、同右から3人目が井関さん。前列右のお二人が田村さん④と小口さん。

買うなら会社で！ 全社員の理解はこれから



Q 自販機を設置されて皆様の反応はいかがですか？

A 〈関本〉 利用する人が増えて、今まで一つだった空き缶の回収箱を一つ追加してもらいました。私は、外出していて飲み物が欲しくなった時、同じものを買うなら寄付につながる方が良いので会社に戻ってから買っています。

〈小口〉 しかし、ハンガーゼロ自販機を設置した目的を全社員がよく理解するまでには、まだまだ時間が必要かと思います。

HPの金子真也代表取締役のこあいさつに「志と思いやりにあふれ、多くの人にしあわせを届けられるものであるように。その思いを胸に、私たちは歩み続けます。」とあるように「こころ」を大切にしておられる社員の皆様と共に、ハンガーゼロ（飢餓のない世界をつくる）に取り組めることを感謝します。



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。



草木染めのストール 肌に優しいシルク100% ～エチオピアから～

素材：シルク100%
サイズ：巾30cm 長160cm
染色：草木染め
生産国：エチオピア
フェアトレード：公正な取引による貿易製品

上の商品写真からお好みの色を番号で指定してください。

- ①コーラルオレンジ ②ゴールドインイエロー ③ダスティーピンク ④デニムブルー

1本税込 5,000円
送料日本全国 510円

ハンガーゼロ会員特典：送料無料(会員番号をお知らせください)

数量に限りがありますのでお早目にお求めください。

◎お支払い：後払い
郵便局払込で株式会社キングダムビジネス口座へ。

【お申し込み先】
株式会社キングダムビジネス
電話 06 (6755) 4877 やウェブサイトからも注文ができます。

理事会開催

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構の「定例理事」が3月8日(金)に大阪で開催されます。今年度上半期(2018年7～12月)の報告に基づき討議されます。

「災害復興支援の集い」 森祐理親善大使が出演

国内で続発した災害で被災された方々を覚えて支援する集いです。5月12日(日)午後4時から大阪クリスチャンセンターで開催(入場無料)されます。ハンガーゼロの報告もあります。ぜひご来会ください。

書き損じ「年賀はがき」で 国際協力ができます!

郵便局などで発売中の「年賀状」で書き損じたものやポストに未投函のもの(通常はがきや古い年賀状でもOK。但し書き込み、汚れは不可)がありましたら、大阪事務所までお送りください。切手に交換してハンガーゼロの活動に使わせていただきます。

また、自宅などで使われずに残っている未使用切手や趣味で収集された各種の記念切手(未使用)も大歓迎です。通信費削減のために用いさせていただきます。

紫園親善大使ツアー中止のお知らせ
「親善大使 紫園香さんと行くカンボジアツアー」(6月)は、都合により今年は開催中止となりました。

ファシトレ参加者募集中!!

3月18日から22日までの日程で開催する「ハンガーゼロ・ファシリテータートレーニングキャンプ at TCU」(東京基督教大学内)の参加者を募集しています。将来、途上国の人々と共に生き、働きたいと願っておられる方のためのキャンプです。共同生活をしながら、専門的な講義とグループワークで楽しく学べます。



参加費3万円(食費・宿泊費込) ※会場までの交通費除く
お申し込みは、大阪事務所 072-920-2225

サポーターお申し込み欄 FAX072-920-2155

氏名	
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 344号

<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □(500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **4555**口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター